

2010

社会・環境報告書

Social & Environmental Report

目次

DNTグループの事業領域	2
トップメッセージ	4
特集	
『東京スカイツリー®』に厚膜形 ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が採用	6
丸の内地域に 遮熱塗料「エコクール」を塗装	7
<hr/>	
マネジメント	
コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス	8
<hr/>	
環境報告	
環境経営の基本方針	10
環境マネジメント	11
環境会計	13
環境安全行動計画と実績	14
環境対応形商品の開発	16
地球温暖化防止への取り組み	19
大気汚染防止／水質汚濁防止	20
廃棄物の削減／グリーン調達・購入	21
化学物質の管理	22
事業活動と環境保全活動	24
環境コミュニケーション	25
<hr/>	
社会性報告	
お客様との関わり	26
社会との関わり	28
従業員との関わり	30
グループ会社の取り組み	33

編集方針

当社は、2004年から毎年「環境報告書」を発行しています。2007年度からは、環境報告に加え、社会性報告の充実を図り、大日本塗料のステークホルダーや本書の読者の方々の関心にお応えすべく情報公開に努めています。また編集に際しては、環境省「環境報告ガイドライン2007」を参考にしています。

報告対象範囲

大日本塗料グループ
(ただしデータ集計の範囲は大日本塗料(株)の事業所)

報告対象期間

2009年4月～2010年3月
(一部、2010年4月以降の活動を含む)

お問い合わせ先

大日本塗料株式会社 環境品質保証部
TEL 06-6466-6662
FAX 06-6463-1394

大日本塗料ホームページ
<http://www.dnt.co.jp/>

会社概要

商号	大日本塗料株式会社
本社	大阪市此花区西九条6-1-124 TEL 06-6466-6661 FAX 06-6462-0788
設立	昭和4年7月25日
資本金	88億2千7百万円
代表者	代表取締役会長 山下 文隆 代表取締役社長 岩浅 壽二郎
従業員数	510名(連結:2,295名)
決算期	3月31日
売上高	68,892百万円(連結2010年3月期通期)
経常利益	352百万円(連結2010年3月期通期)
事業内容	各種塗料の製造販売、塗装機器 装置の販売、塗装工事、その他

● 当社グループの事業内容 (2010年3月末現在)

塗料事業	当社および国内関係会社	27社
	海外関係会社	10社
照明機器事業	ニッポ電機(株)など	6社
蛍光色材事業	シンロイヒ(株)	1社
その他	関係会社	6社



● 国内・海外ネットワーク

- 本社・大阪事業所／大阪市此花区
- 那須事業所／栃木県大田原市
- 小牧事業所／愛知県小牧市
- 北港事業所／大阪市此花区
- 東京営業本部／東京都大田区
- 東日本販売部
札幌営業所・仙台営業所・北関東営業所・埼玉営業所・
東京営業所・新潟営業所・長野営業所・千葉営業所・
神奈川営業所・静岡営業所
- 西日本販売部
名古屋営業所・富山営業所・大阪営業所・京滋営業所・
神戸営業所・岡山営業所・広島営業所・高松営業所・
福岡営業所・長崎営業所
- 工場
那須工場・小牧工場
- その他
カラーセンター



本社・大阪事業所

■ 主な海外関係会社

- DNT Singapore Pte., Ltd.(シンガポール)
- Thai DNT Paint Manufacturing Co., Ltd.(タイ)
- DNT Paint(Malaysia) Sdn. Bhd.(マレーシア)
- PT.DNT Indonesia(インドネシア)
- LILAMA3-Dai Nippon Toryo Co., Ltd.(ベトナム)
(2010年7月設立)
- Dai Nippon Toryo Mexicana S.A.de C.V.(メキシコ)
- DNT(Shanghai) Co., Ltd.(中国)
- AJISCO-DNT(Ningbo) Paint Co., Ltd.(中国)
- DNT Qingdao Co., Ltd.(中国)

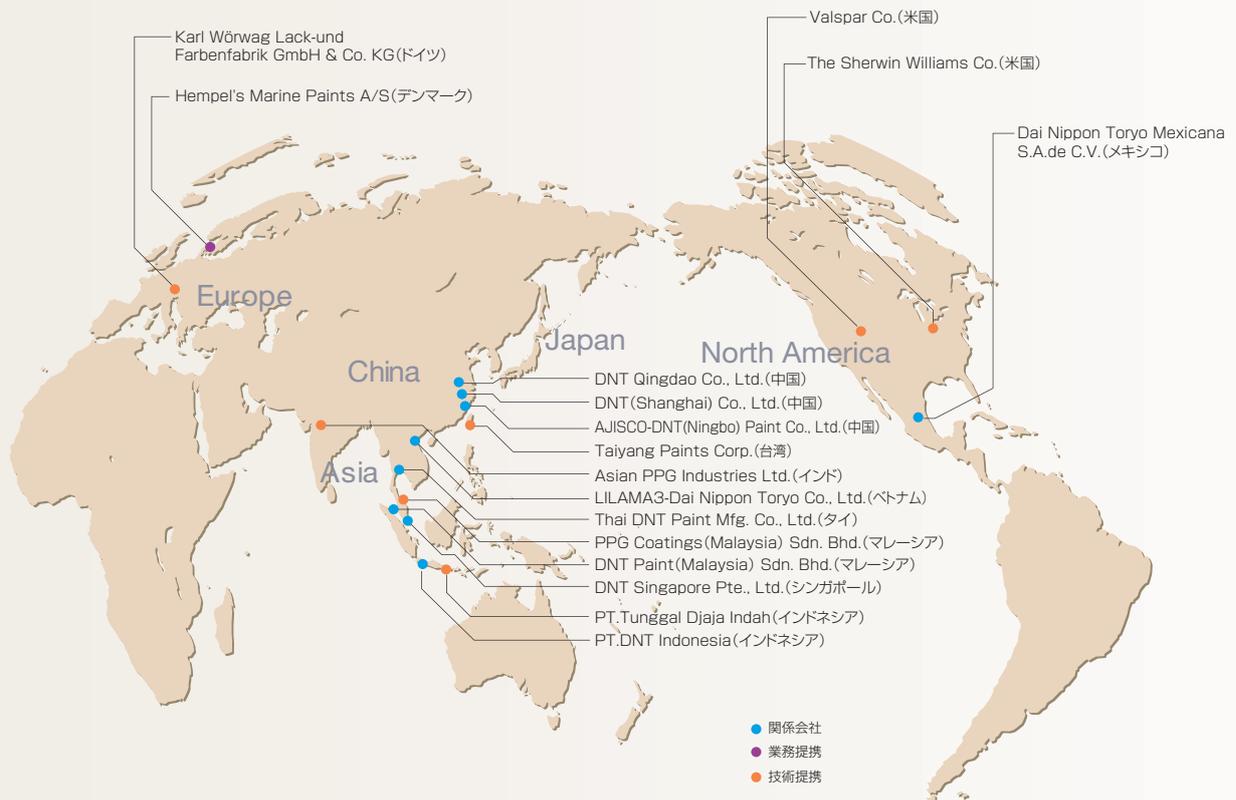
■ 業務提携

- Hempel's Marine Paints A/S(デンマーク)

■ 技術提携

- Taiyang Paints Corp.(台湾)
- PT.Tunggal Djaja Indah(インドネシア)
- PPG Coatings(Malaysia) Sdn. Bhd.(マレーシア)
- Asian PPG Industries Ltd.(インド)
- Valspar Co.(米国)
- The Sherwin Williams Co.(米国)
- Karl Wörwag Lack-und
Farbenfabrik GmbH & Co. KG(ドイツ)

● 海外ネットワーク



暮らしを支える確かな技術

橋梁、鉄道車両、自動車、高層ビル、さらに住宅や家電製品。

社会基盤を支えるものから身の回りの生活用品まで、

大日本塗料の製品はあらゆる分野に使われています。

産業の発展を彩る

高速道路や橋梁、新幹線、船舶、そして工場。

産業や生活の基盤を最先端の技術で彩ります。



暮らしを楽しく彩る

アミューズメント施設や
電化製品、自動車など、
毎日の生活をもっと素敵に
彩ります。



街並みを快適に彩る

ビルや施設、病院、住宅など、
人が集まる建築物を美しく快適な空間に彩ります。

塗料メーカーとして与えられた課題に誠実に対応し、 持続可能な社会づくりに貢献します。



創業80周年をこえて～ 先駆者から学ぶこと、受け継ぐこと

当社は2009年に、創業から80周年を迎えましたが、その事業史の原点となったのは錆止め塗料「ズボイド」の開発でした。

「ズボイド」は当時の市場が求めていた防錆能力を卓越した形で実現し、幸いに多くのお客様の支持を得ました。この製品が市場に広く迎えられたのは、当社の防錆技術への限りない研究心と、世の中に有用な製品を送り出すという確固たる信念が評価された結果といえます。こうした先駆者たちの

熱い思いは、「広く社会の繁栄と豊かな暮らしの実現に役立つ企業」をめざす当社の理念となって現在まで脈々と受け継がれております。

創業以来今日に至る当社の歴史の中で、私が入社したのは1971年のことです。この年の7月に環境庁（現環境省）が発足し、わが国における本格的な環境行政がスタートしました。それから40年近い時間が流れましたが、私たちを取り巻く身近な生活環境を守り、さらに広く地球環境を保全することは、いまや世界共通の認識となっており、当社もその実現に向けて日々の事業活動に取り組むことを重要なミッション（使命）と位置づけています。

環境問題に取り組むことは、企業としての社会的責任をどう果たすか、ということでもあります。

いまから80年前、当社を支え、今日へとつながる道筋を拓いた創業の精神を受け継ぎ、独創的な技術の探求と、それを生かした環境負荷の低減を実現する製品開発を通じて、環境問題と向き合う企業としての社会的責任を果たしていきたいと思えます。

高付加価値・高機能指向を製品開発の 基本においています

2009年度は第二次中期経営計画の最終年度でしたが、製品面では一般塗料および工業塗料の両分野において、環境に負荷をもたらす物質を低減した製品や、省力化および省エネルギー化に対応した環境配慮形製品とシステムの開発など、高付加価値・高機能製品の開発と販売に注力しました。いずれも「環境とエコ」をキーワードとしたものです。これらは当社における製品開発を支える発想の原点であり、事業活動を展開するうえでの基軸となるものです。

また、自立式電波塔としては世界一の高さを誇る「東京スカイツリー®」（2012年開業予定）に使用される塗料に、長期的な防食性と耐久性、外観保持、さらには大気汚染防止法に対応したVOC（揮発性有機化合物）の排出抑制など、総合的な

観点から当社の厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が採用されました。一方、リニューアルでは神戸ポートタワーの塗装の全面更新において当社製品が使用され、47年ぶりに建設当時の美しさと輝きが蘇りました。

これらは代表的な事例にすぎませんが、ともに「独自技術を生かして社会に有用な製品を送り出す」という当社の創業精神が結実したものといえます。

国外では、2010年7月に中国、シンガポール、タイなどアジア圏における現地供給体制の整備の一環で、ベトナムにおいても国営企業である「LILAMA3」社と塗料販売の合弁会社を設立しました。船舶や構造物向けの重防食塗料の事業展開を中心に、アジア諸国の社会資本やインフラ整備への貢献を主眼とした海外事業戦略は今後も拡大させていく予定です。

社会のニーズをとらえ、 環境対応形製品の開発を加速させます

2010年4月、環境省は「環境経済成長ビジョン～チャレンジ25を通じた経済成長」を発表しました。これは1990年比温室効果ガス25%削減による地球温暖化防止への取り組みを、経済成長戦略に直結させることを狙いとしたものですが、塗料業界としてもより積極的な対応が求められることになりました。

すでに当社は、塗装するだけで太陽熱による室内温度の上昇を抑え、その結果として空調に必要な電気消費量を削減する遮熱塗料「エコクール」を、業界に先駆けて製造段階でのCO₂排出量をオフセット(相殺)する製品として販売しています。また鋼構造物やコンクリート躯体を腐食から保護する防食塗料分野においても、環境に負荷を与えることが少ない製品を開発し、着実な成果を生み出しつつあります。

当社ではこれからも塗料メーカーとして持続可能な社会づくりに貢献できる道を探求し、社会のニーズに的確に応えられる環境対応形製品の開発を加速してまいります。

「信頼」をひとつずつ確かな形にしていきます

化学物質の開発から製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄にいたる全過程において、環境や健康、安全面の対策を行い、改善をし、その活動の成果を公表する自主管理活動をレスポンシブル・ケア(RC)といいます。当社は日本レスポンシブル・ケア協議会(1995年4月設立)に加入し、社内における

レスポンシブル・ケア活動の実施を宣言しました。以来、環境・安全・健康の課題に対して全従業員が一体となった活動を続けています。

また、日本化学工業協会(JCIA 日化協)に加盟している会員会社として、世界各国の化学工業協会と各企業が連携し、RC活動を世界的に強化することを求める「RC世界憲章」の制定に向けた活動にも取り組んでいます。

レスポンシブル・ケア活動は社会から信頼される企業のあり方とも無関係ではありません。社内においては「内部統制・業務改革プロジェクト」を当社に続いて関係会社に展開し、2009年1月から本格稼働を開始しました。これもまた、信頼される企業をめざして当社が取り組むべき重要な課題のひとつでした。

このプロジェクトの展開によって、企業倫理の徹底と適正な業務執行の維持と強化を実現し、経営基盤の整備とともに地球環境保全活動、適切な情報開示、社会貢献活動など企業の社会的責任を果たしてまいりたいと思います。

さらに前へと向かうために

環境問題に関する取り組みに終わりはなく、当社では今後も環境負荷の低減を実現する製品開発に全社を挙げて取り組んでまいります。

最近の成果のひとつとして無公害の防錆顔料の開発があります。

これは重金属を含まない鉛・クロムフリーのため、人体への安全性確保にすぐれ、環境にも優しいという、きわめてオリジナル性の高い防錆顔料です。当社の創業製品である「ズボイド」の後継品として新しい時代を切り拓くものと期待できる製品といえます。創業80年から次の展開をめざす節目において、これまでの事業史をつなぎ、さらに前へと向かう新製品が生まれたことに運命的なものを感じるといえば大げさでしょうか。

しかし、これも新しい歴史を刻むためのステップにすぎません。当社はこれからも企業経営・事業活動・製品開発などさまざまな分野において、社会から必要とされ、信頼される企業であり続けるためにさらなる努力を重ねてまいります。

代表取締役社長 いわさ としじろう
岩浅 壽二郎

『東京スカイツリー®』に 厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が採用



画像提供：東武鉄道株式会社・東武タワースカイツリー株式会社

2012年春、開業予定の『東京スカイツリー®』に当社の超耐久性塗料の厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」が採用されました。

使用される塗料は、長期的な防食性、耐久性と外観保持が求められるため、最も耐候性に優れた「ふっ素樹脂塗料」が検討され、より防食性や耐久性に優れた当社の「VフロンHB」が、揮発性有機化合物（VOC）対策等も踏まえた総合的な評価で採用されました。

採用された塗装システムは、本四連絡橋の他、特に腐食の厳しい海浜地区に数多くの実績がある橋梁塗装仕様「鋼道路橋塗装・防食便覧C-5塗装系」を基準として、更に耐久性の向上およびVOCの削減という要求事項を満たしたものです。塗装システムのポイントは、防食下地に有機ジンクリッチペイントを採用し防食性の高い塗膜を形成させ、大気中に放出される有機溶剤量の多いミストコート工程を省き、上塗塗料には、従来の中塗・上塗工程の塗膜厚みを1回で塗装でき保色耐久性に優れた厚膜形ふっ素樹脂塗料「VフロンHB」を適用したことです。従来5工程の塗装仕様を3工程とし、耐久性の向上を図ると共に環境負荷低減（VOC排出量削減）を実現したものです。

今回、当社が採用されたのは、「構造物の保護と美装」を基本として、これまでの「ふっ素樹脂塗料」に更に防食性、耐久性の向上を付加し、環境面にも配慮した商品開発の成果が認められたもので、当社の高い技術力が評価されたものといえます。



丸の内地域に 遮熱塗料「エコクール」を塗装

例年、1月2日、3日に大学生たちが白熱した戦いを繰り広げる東京箱根間往復大学駅伝競走、通称「箱根駅伝」。この箱根駅伝のスタート地点である丸の内の読売新聞社近くの路面に路面用遮熱塗料「エコクールペイブMMA」が塗装されました。

見た目も軽やかな、通常の路面色より少し明るいグレーで、評判も上々です。路面用遮熱塗料は塗っていない路面と塗っている路面を比較すると、約10℃ほど温度を下げることができます。これは、遮熱用の特殊な多面体顔料が、太陽光の中の熱に変わりやすい赤外線を多く反射させるという特徴を利用することにより、路面の温度を下げることができるのです。

遮熱塗料は屋根用として開発され、工場などの屋根や屋上にご使用いただいておりますが、最近は路面用も注目され、一般道やプールサイドなどへの採用も増えてきています。

また、この近くにある「丸の内パークビルディング」の屋上に、弱溶剤形ふっ素樹脂遮熱塗料「エコクールマイルドF」が採用されました。

屋根、壁、路面に塗装ができる遮熱塗料「エコクールシリーズ」。これからも多方面での採用が期待できます。



丸の内パークビルディング

コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

コーポレート・ガバナンスを実現するため、社員全員がコンプライアンスを徹底・推進しています。

コーポレート・ガバナンス体制

大日本塗料グループは、社会から広く信頼され、親しまれる存在であり続けられるよう、常に健全性と遵法性・透明性の高い経営を推進するコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。株主・顧客・取引先・地域住民・社員などすべてのステークホルダーへの情報公開や説明責任を果たすことはもちろん、経営各層の責任を明確にし、違法行為などをチェック・防止する体制を敷いています。

監督・監査体制は「取締役会」と「監査役会」が担っています。取締役会は取締役9名で構成し、そのうち1名が社外取締役で、経営の監督にあたっています。また、監査役会は常勤監査役3名、非常勤監査役1名の計4名で構成しており、うち2名が社外監査役です。

業務執行体制では「執行役員制度」を採用。取締役は経営の迅速化・監督機能の強化などの経営機能に専念し、各部門統括などの業務執行権限は執行役員に委ねて執行責任を明確にしています。

内部統制

大日本塗料グループでは、すべてのステークホルダーの信頼と期待に応え、社会的責任を果たすことを目的として、IT等も活用した内部統制の仕組みを構築しています。グループ全体が効率よく業務を進め、さまざまな課題を解決し、事業目標を達成してより健全な発展を目指しています。

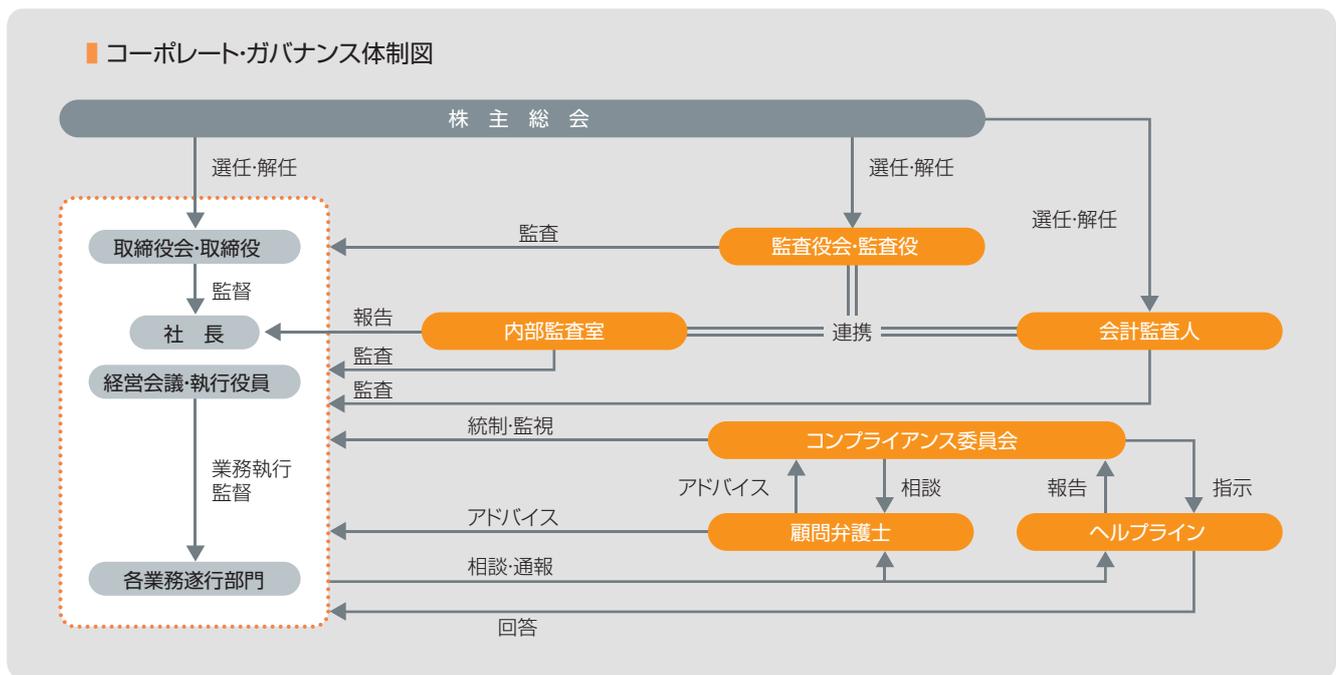
2007年3月には、内部統制の考え方やルールをグループ全体に定着させ、企業体質を強化するため『内部統制ハンドブック』を制作して全グループ社員に配布し、日常的に活用しています。

また、内部統制の仕組みが有効に機能しているかを常に確認するため、①監査法人による監査②内部監査室による監査③職制による監視、の3通りのチェックを行っています。



内部統制ハンドブック

■ コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

昨今起きている企業の不祥事の多くがコンプライアンス（法令遵守）違反であり、その背景には「ルールがない」「ルールを守らない」などの企業体質・風土があるといえます。

コンプライアンスとは、広く解釈すれば法令だけでなく社会モラルや会社の規則を守ることも含まれます。コーポレート・ガバナンスを実現するためには、内部統制の基本となる社員全員によるコンプライアンスの徹底と推進が必要であり、それが内部統制さらにはコーポレート・ガバナンスの成否にも影響することになります。

当社は、顧客・社会の信頼、株主の期待に応えるべく、良き企業市民としての自覚を高め、法令遵守はもとより、社会倫理規範に適合したコンプライアンス経営を行うことについて、企業行動憲章を定めています。

また、大日本塗料グループでは、大日本塗料内および社外に「コンプライアンス相談窓口」を設け、内部統制上疑問に思うことがある場合にはEメール、専用電話または封書で相談・報告できる体制を確立しています。なお、この際の相談・報告者に何らの不利益も生じることのないよう、プライバシーは完全に保護されます。

Topics

内部統制・コンプライアンス研修を実施中 ～大日本塗料グループの全役員・全社員を対象～

大日本塗料グループの全役員および全社員を対象に、内部統制とコンプライアンスについて組織的・継続的に研修を実施中です。

研修では大日本塗料グループがこれからも健全な会社として存続し続けるために何が必要なかを学び、それを一人ひとりが自分自身のものとしてしっかり身に付けることを目的としています。



「役員対象インサイダー取引規制研修」

個人情報の保護

大日本塗料株式会社は、当社が現在保有している、あるいは将来保有する、情報者本人を識別し得る情報（以下、個人情報という）を保護することが重要であることを認識し、これら個人情報を適切、適正に保護するために以下のように取り組んでいます。

個人情報保護方針

- 1 当社は、個人情報※1を取り扱う際に、個人情報保護法をはじめ個人情報保護に関する関係諸法令および経済産業省のガイドラインに定められた義務ならびに本保護方針を厳正に遵守することを誓約します。
- 2 当社は、利用目的をできる限り特定したうえで、あらかじめ本人※2の同意を得た場合および法令により例外として扱われる場合を除き、利用目的の範囲内でのみ、個人情報を取り扱います。
- 3 当社は、個人情報を取得する場合には適正な手段で取得し、法令により例外として扱われるべき場合を除き、利用目的をあらかじめ公表するか、取得後速やかにご本人に通知または公表します。但し、ご本人から書面で直接取得する場合には、あらかじめ利用目的を明示します。
- 4 当社は、取り扱う個人データ※3を、利用目的の範囲内で正確・最新の内容に保つよう努め、また、漏洩、滅失または毀損の防止、その他個人データの安全管理のために必要・適切な措置を講じ、従業員※4および委託先に対し必要かつ適切な監督を行います。
- 5 当社は、法令等により例外として扱われるべき場合を除き、あらかじめご本人の同意を得ることなく、個人データを第三者に提供しません。
- 6 当社は、保有個人データ※5につき、法令に基づきご本人からの開示、訂正、利用停止等に応じます。
- 7 当社は、取り扱う個人情報につき、ご本人からの苦情に対し迅速かつ適切に取り組み、そのための社内体制の整備に努めます。
- 8 当社は、取り扱う個人情報につき適正な内部監査を実施するなどして、本保護方針の継続的な改善に努めます。

※1 生存する個人に関する情報であって、特定の個人を識別できるものをいう。

※2 その個人情報によって識別される特定の個人をいう。

※3 個人情報データベース等を構成する個人情報をいう。なお個人情報データベース等とは、個人情報を含む情報の集合物であって、特定の個人情報を電子データベースのほか容易に検索できるように体系的に構成したものとて法令で定められたものをいう。

※4 当社の役員、従業員のほか派遣社員などを含む。

※5 開示、内容の訂正等の権限を有する個人データであって、その存否が明らかになることにより公益その他の利益が害されるものとして法令で定めるもの、または6ヶ月内に消去することとなるもの以外のものをいう。

平成17年4月1日制定

個人情報保護に関するお問い合わせは下記宛にお願いいたします。
大日本塗料株式会社 管理本部総務部

環境経営の基本方針

環境に配慮した製品の開発・製造・販売を行うことにより、広く社会に貢献します。

■ 環境・品質保証担当役員のメッセージ

地球環境を守り、持続可能な社会を築いていくことは、近年もっとも重要な課題となっています。それぞれの企業が社会の一員として、地球温暖化の防止や環境汚染を防止する具体的な行動をすることが大切です。

当社は環境対応技術の開発に取り組み、環境を守り、資源・エネルギーを活かす商品開発とその品質の向上に努めてきました。水性塗料、粉体塗料や低温硬化、省工程、高耐久性塗料や鉛・クロムフリー化など、消費エネルギーの削減、温暖化ガスの排出削減、有害物質の排除に貢献する多くの環境配慮形商品を開発し、市場に展開しています。また、ISO9001とISO14001を品質と環境のマネジメントシステムの基礎として、研究開発から原料調達、生産工程、流通販売、塗装工程を経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体での環境影響を最小とし、その品質保証システムを構築しています。

当社は、日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)の設立発起人会社として、レスポンシブル・ケア(RC)活動を推進してきました。RC活動は化学会社の事業活動で「環境・安全・健康」を最優先課題として取り組み、その活動の成果を公表し地域社会との対話、コミュニケーションを行うものです。

今後も法令・規則を遵守し、環境・安全・健康に配慮した企業活動を地域社会の皆さんとともに進めてまいります。



取締役専務執行役員 管理本部長 瀬古 宜範

環境方針

大日本塗料株式会社は、「環境負荷が小さく持続可能な経済社会を築いていくことが重要である」との認識のもと、地球規模の環境保全活動を継続的かつ着実に推進しながら、塗料及び関連製品の開発・製造・販売を通じ社会に貢献する事を基本とする。活動は、以下の環境方針に基づき全員が一致協力して行う。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 製品の研究開発から生産・販売・サービスを経て廃棄に至るまでのライフサイクル全体に渡り、事業活動から生じる環境への影響を常に的確に評価・把握できる環境マネジメントシステムを確立し、実施し、環境汚染を予防する。 ② 環境マネジメントシステムを実施、維持し、PDCAサイクルによる継続的改善を図る。 ③ 事業活動、製品及びサービスに係わる環境関連法規制、並びに当社が同意するその他の要求事項を遵守することを約束する。 ④ 環境保全推進のため、次のテーマを重点的に取り組む。これらの活動は、環境方針に基づき、目的・目標を立て計画的に実施すると共に、内容を定期的に見直し、改善する。 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 環境負荷低減を可能にする塗料及び関連製品の開発、販売 2. 揮発性有機化合物の適切な管理と削減 3. 産業廃棄物の発生抑制とリサイクル促進 4. 省エネルギー並びに地球温暖化防止活動 ⑤ 環境方針は文書化し周知徹底すると共に、グループ会社を含めた全従業員(パート、派遣者等を含む)に対し環境教育を行うと共に、当社の事業活動に関与する人も含めて、環境保全に対する理解と意識の向上を図る。 ⑥ この環境方針は一般に公開する。 |
|---|--|

環境マネジメント

環境方針に基づいた活動体制を組織し、
 全員参加により環境マネジメントシステム(EMS)を展開しています。

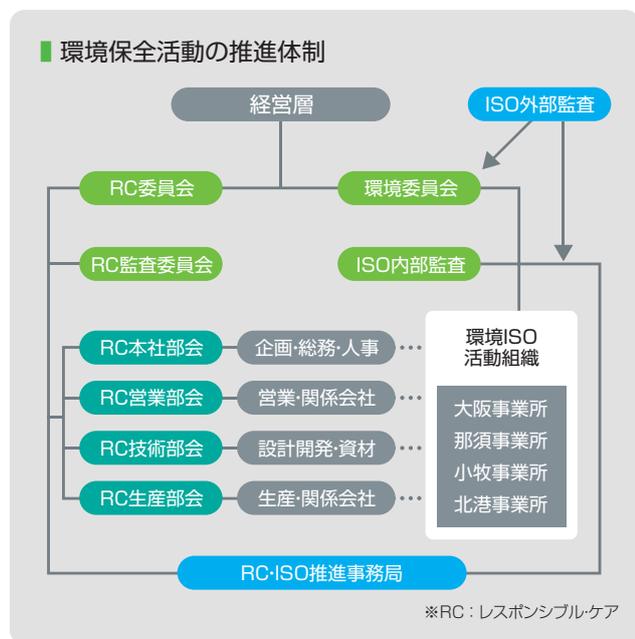
環境保全活動体制

当社では、会社の全組織をその業務内容により、本社部門・営業部門・技術部門・生産部門の4つに区分して「部会制」による活動を実施して、QC／工夫改善／レスポンシブル・ケア等の活動を行っています。

ISO活動では、会社組織の最小単位（通常は課・チーム等）での活動方式を取り入れ、部署長に運用責任をより多く委ねることとしています。

この活動体制を、ISOの基本である「全員参加」に一層つながるものと位置づけ、各自の意識向上はもとより、ISOの仕組みを自分たちの実際の業務に生かしていく努力を引き出すことを狙いとしています。今後もこの活動体制の定着を図っていきます。

環境保全活動の内容としては、工場が所在する那須事業所・小牧事業所を中心に、地球温暖化防止・水質汚濁防止・大気汚染防止・化学物質の管理・廃棄物の削減を中心とした取り組みを実施しています。



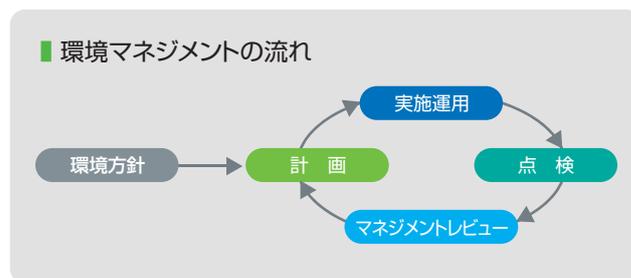
環境マネジメントシステム

当社では、大阪事業所・那須事業所・小牧事業所・北港事業所の4事業所でISO14001認証を取得しています。2006年度以降は、ISO14001活動の日常業務への落とし込みによる一層の定着化を図り、特に若年層や間接部門の教育に注力して「全員参加」に結びつけるよう努力しました。

その結果、環境パフォーマンス面では生産主力拠点である那須工場、小牧工場で廃棄物のリサイクル化が進み、年度ごとに廃棄物の発生量削減につながりました。また、太陽光発電パネルの設置や、コージェネレーションシステムの活用等、地球温暖化防止につながる活動を実施して、効果を上げています。

● ISO14001 認証取得状況

事業所名	取得時期
大阪事業所	2002年3月
那須事業所	2003年3月
小牧事業所	2003年3月
北港事業所	2008年3月



環境監査

■ 内部監査

内部環境監査は、ISO14001規格に基づき年1回定期的に実施されています。大阪事業所・那須事業所・小牧事業所・北港事業所における組織の最小単位にて設定された「目的・目標および実施計画」の運用、環境関連法の順守状況、事務局にて定めた重点項目の監査など、マネジメントシステムとしての有効性について監査を実施しています。

2009年度は、環境対応形商品の開発など、当社の本来業務に関わる内容についても監査を行い、ISO活動のさらなる徹底を図りました。

● 内部監査の実施状況

項目	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	
	'07 1~2月 実施	'08 1~2月 実施	'08 12月~ '09 1月 実施	'09 1~2月 実施	
対象事業所数	4	4	4	4	
活動単位数	71	70	70	69	
延べ日数	4	5	6	7	
延べ監査員数	54	46	60	61	
指摘 件数	軽欠点	28	9	19	20
	コメント	67	54	60	31

■ 外部審査

2009年度のISO14001外部審査は、2001年度取得以降の維持審査で、認証取得の継続が認められました。

マネジメントシステムの運用状況、環境対応形商品の開発状況やRC活動の動きなどとともに、各事業所での環境活動の状況、環境負荷物質や産業廃棄物の管理状況、法規制の順守評価などの審査が行われました。

その結果、「順守評価」、「監視及び測定」、「緊急事態への準備及び対応」などについての指摘があり、各部署での改善と横展開を図りました。

● 外部審査の実施状況

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
'07 2月受審	'08 2月受審	'09 2月受審	'10 2月受審
対象：4事業所 軽欠点：1件 コメント：2件	対象：4事業所 軽欠点：6件 コメント：2件	対象：4事業所 軽欠点：3件 コメント：1件	対象：4事業所 軽欠点：4件 コメント：0件



「ISO14001外部審査」風景

環境教育

当社では社員を対象に、講義と実習で構成される環境安全講座を実施しています。

VOC規制や欧州におけるRoHS/ELV指令、2007年6月に施行されたREACH規制など、塗料と環境問題との関わりについての理解を深めることで、専門的営業能力の向上、営業活動のノウハウ、塗料及び塗装技術、環境対応の知識の習得を図っています。

また、新入社員を対象とする入社時研修プログラムでは環境に関する教育を行い、基礎知識を向上させることにより、各部署への配属後に役立つようなスキルアップに取り組んでいます。



環境に関する教育（新入社員研修）

環境会計

環境に配慮した事業活動を進めるためのコストや効果を定量的に把握し、着実に環境負荷を低減させています。

環境保全コスト

企業活動にともなう環境負荷を低減させる設備機器への投資、環境対応形商品の研究開発にともなう費用、環境情報の公開、地域活動への支援などの費用を環境保全コストとして集計・管理しています。

(単位:百万円)

コスト分類	事業エリア内コスト 上・下流コスト	管理活動コスト	研究開発コスト	その他コスト	合計
活動の内容	公害防止 地球環境保全 資源循環	EMSの整備・運用 環境情報の開示・広告 社員への教育	環境保全に資する製品 研究開発	土壌調査・浄化 環境保全活動の 地域支援など	
2006年度	57.9	101.2	7.8	18.3	185.2
2007年度	140.3	54.5	19.8	1.4	216.0
2008年度	77.4	25.7	53.7	3.3	160.1
2009年度	78.6	10.4	58.6	7.9	155.5

※2007年度は、省エネのために太陽光自家発電装置を設置しました。

環境保全効果

エネルギー使用量の総量は減少しましたが、生産量も低下したため、原単位では前年比で増加しました。一方、産業廃棄物の発生量は総量、原単位ともに前年比で、削減することができました。今後もエネルギー使用量と産業廃棄物の削減に取り組んでいきます。

● エネルギー使用量・原単位の推移

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
エネルギー使用量 (原油換算量)(kl)	7,500	9,400	8,100	7,360
原単位 l/t(生産量)	114	144	95	105

※2009年度から「エネルギー使用の合理化に関する法律(省エネ法)の改正にともなって全事業所のエネルギー使用量を集計しています。

● 産業廃棄物の発生量・原単位の推移

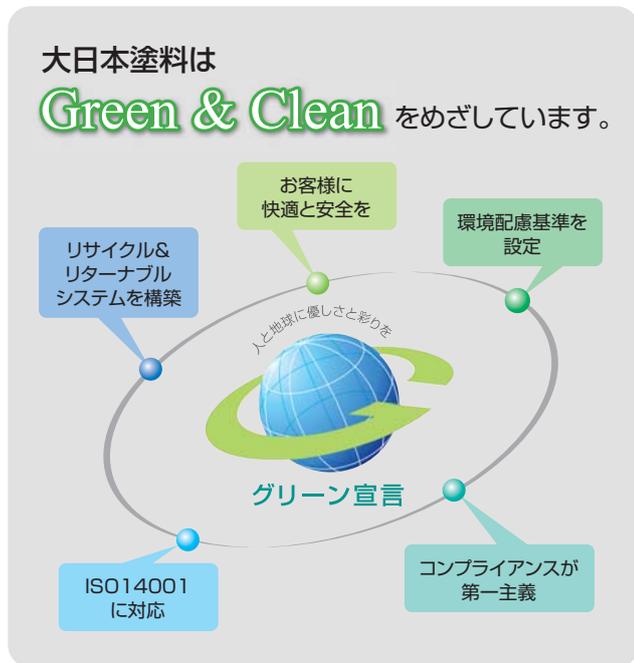
	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
産業廃棄物発生量 (t)	2,990	3,890	3,680	2,330
原単位 kg/t(生産量)	45	60	43	33

環境安全行動計画と実績

「環境への配慮」をコンセプトとしたアクションプランを策定し、
 全員参加でRC(レスポンスブル・ケア)活動等に取り組んでいます。

グリーン宣言

自分たちができることから実行することが、地球規模の環境を守ることに繋がります。当社は『グリーン宣言』を掲げ、
 全社一丸となって「環境を守り、健康で快適な暮らしを創る」
 をテーマに、環境対応に積極的に取り組み、企業としての責任
 を遂行していきます。



環境安全行動計画

RCコード	行動計画
環境保全	VOC取扱量及び大気排出量の削減
	廃棄物リサイクル率の向上
	消費エネルギー削減
	環境配慮形商品の販売比率向上
保安防災	リスクアセスメントの実施と防災対策
	設備運用と保守点検
	設備事故の発生ゼロ
労働安全衛生	労働災害の発生ゼロ
	長期疾病率の低減
	5S活動とヒヤリハットマップの活用
物流安全	製品輸送、取り扱いに於ける事故ゼロ
	輸送安全措施用携行の励行(イエローカード、吸着材等)とセンター常備品(吸着材等)の保管徹底
化学品・製品安全	原材料の安全性情報の整備
	製品MSDSの提供
	環境・安全に配慮した製品設計と品質管理
社会との対話	地域社会との交流
	環境活動に関する情報発信

	2009年度活動実績	2010年度目標	中長期計画	関連頁
	<ul style="list-style-type: none"> VOC取扱量2000年度比 那須工場 29%減 小牧工場 77%減 VOC大気排出量2000年度比 那須工場 19%減 小牧工場 66%減 	<ul style="list-style-type: none"> VOC取扱量及び大気排出量の削減 前年比20%削減 	<p>製品中の有機溶剤削減に取り組むと共に、省エネルギー、廃棄物低減を推進する</p>	P20
	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物リサイクル率 那須工場 72% 小牧工場 67% 廃棄物総量前年比 那須工場 13%減 小牧工場 24%減 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物リサイクル率の前年比改善 廃棄物総量の前年比削減 		P21
	<ul style="list-style-type: none"> CO₂発生量換算で前年比12%減 	<ul style="list-style-type: none"> 消費エネルギーをCO₂発生量換算で対前年比 3%削減 		P19
	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮形商品の開発推進 環境配慮形商品を展示会等でPRし拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 環境対応型商品の品揃えを完了し拡販 		P16-18
	<ul style="list-style-type: none"> 生産設備機器のリスク評価表を作成しアセスメントを実施 前年に引き続き写真等による設備運転基準の見える化を実施 設備点検基準に基づき月次点検、半期毎に定期点検を実施 事故3件が発生。設備不良と人為的なうっかりミス等による事故のため、即対策を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 設備、機械のリスクアセスメントを計画的に実施し、本質安全を見据えた先取り改善を実施する 設備保守点検を計画的にもれなく実施 事故の発生ゼロ 	<p>リスクアセスメントに基づく予防処置を含む作業時の保安防災体制を強化する</p>	—
	<ul style="list-style-type: none"> 不休災害10件が発生。工場内設備の見直しを実施 長期疾病率の全社目標2.4%以内に対し実績6.7%で目標達成できず 工場全体で5S活動を推進 ヒヤリハット内容の検証を行い、対策を実施 安全コンサルタント同行での安全衛生委員会パトロールを実施 安全衛生ビデオを活用した安全教育を実施 安全衛生ニュースを毎月発行しPR 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の発生ゼロ 長期疾病の発生抑制 ヒヤリハットマップの活用 5Sの展開 安全教育を重視し、繰り返し実施 PR、教育、訓練に関する基準類の整備運用 	<p>安全操業確保のための企業風土の維持・改革に努めると共に、従業員のメンタルヘルスにも配慮した働きやすい職場の実現を図る</p>	P30-31
	<ul style="list-style-type: none"> 危険物・劇物の積載・運搬上の注意事項徹底及び実施 重大事故に繋がる過積載の防止徹底 発生した事故については調査、対策報告を実施済み イエローカード「危」マーク・消火器・吸着材を携帯実施 年1回抜き打ち検査を実施して携帯を確認 各センターの決められた場所に備品を用意(砂袋・ウエス・スコップ・箒) 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送取扱における危険有害因子特定及び周知とそのチェックの完全実施 製品輸送、取り扱いにおける事故ゼロ 輸送安全措置用携行の励行(イエローカード、吸着材等)とセンター常備品(吸着材等)の保管徹底 	<p>製品輸送に関するリスクアセスメントを実施し、環境保全、安全、健康を確保する</p>	—
	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の法規制に対応した原料データベースの更新を実施 化管法(PRTR法)改正とGHS化に対応したシステム改良を実施 製品MSDSを発行提供 環境配慮形商品の生産管理、品質管理を継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の安全性情報の整備 製品MSDSのデータの最新化とGHS対応 環境・健康・安全に配慮した製品設計・品質管理基準の見直しと徹底 	<p>製品に関する化学物質等のリスクアセスメント実施要領作成とリスクアセスメント実施体制の構築</p>	P22
	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会でのボランティア活動実施。地域主催の産業フェスティバル等の行事にも積極的に参加し、交流活動実施 工場見学、地域交流会等を開催 労働基準協会、危険物安全協会、防火協会、ISOネットワーク等の各協会に加盟し活動実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域関係団体、協会活動に取り組み情報交換 	<p>地域立地企業として地域社会との融和を図り、社会から高い信頼を得るよう努める</p>	P28
	<ul style="list-style-type: none"> 社会・環境報告書、RC活動報告、環境セミナー、HP情報などで情報公開 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・環境報告書、RC活動報告、環境セミナー、HP情報などで情報公開 		

環境対応形商品の開発

「健康で快適な暮らし」の実現へ向けて、環境対応形商品を提供しています。

環境対応形商品

「Green & Clean」を掲げ、低VOCをめざす当社は、あらゆる分野で水系化・弱溶剤化・脱重金属化・粉体化を推進し、人と環境に配慮した商品を提供しています。

建築

商品群・商品

- 室内環境対応形水系塗料：ノボクリーン・ノボクリーンビュー・ノボクリーンバイオ
- 室内環境対応形高意匠内外塗装材：ノボクリーンDeCo
- 遮熱塗料：
エコクールマイルドシリーズ(F/Si/U)、
エコクールアクアSi・エコクールペイブアクアU
- 反応硬化形水性強膜塗料：水性ビルデック
- 非汚染形壁面水系塗料：ビューテックス
- 一液反応硬化形水系塗料：
DNTビューシリーズ(ふっ素/シリコン/ウレタン/アクリル)
- 弱溶剤一液反応硬化形ウレタン樹脂塗料：Vトッパー液スマイル
- 低汚染形弱溶剤系ウレタン樹脂塗料：DNTウレタンスマイルクリーン
- 低汚染形弱溶剤系アクリルシリコン樹脂塗料：DNTシリコンスマイルクリーン
- 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料：Vフロン#200スマイル
- 二液形水性ウレタン樹脂床用塗料：水性床コートウレタン
- 多彩模様サイディングボード用クリアー：SBライズコートシステム



ノボクリーンシリーズ

有機溶剤ゼロで
人と暮らしにやさしい
～シックハウス症候群対応～

有機溶剤をゼロにし、従来のエマルジョン塗料特有の臭いがなく、人や地球環境にやさしい、室内用塗料です。

遮熱エコクールシリーズ

光を反射し、
熱を放射する省エネ塗料

～カーボンオフセット対象商品～
塗装することで太陽熱による室内温度の上昇を抑える効果があり、結果として、空調の電気消費量が削減できます。



構造物

商品群・商品

- 高性能水系さび止めペイント：ブルーボーセイ
- 鉛・クロムフリーさび止めペイント：グリーンズボイド、グリーンボーセイ
- 一液湿気硬化形ポリウレタン樹脂下塗塗料：Vグラン下塗
- 浸透性変性エポキシ樹脂塗料 弱溶剤形：エポオールスマイル
- 浸透性変性エポキシ樹脂塗料 弱溶剤形・厚膜形：
エポオールHBスマイル
- ポリウレタン樹脂上塗塗料 弱溶剤形：VトッパーHスマイル
- 厚膜形ポリウレタン樹脂上塗塗料 弱溶剤形：VトッパーHBスマイル
- ふっ素樹脂上塗塗料 弱溶剤形：Vフロン#100Hスマイル
- 低汚染形・厚膜形ふっ素樹脂上塗塗料 弱溶剤形：
VフロンHBクリーンスマイル
- 弱溶剤厚膜形シリコン変性エポキシ樹脂系下上塗兼用塗料：
Vシリコンスーパー



グリーンシリーズ

DNTだからできた無鉛ハイグレードさび止めペイント
～グリーン購入法適合商品～

鉛・クロムなどの有害重金属を含まず「グリーン購入法」に適合した環境に優しいさび止めペイントです。

VフロンHBシリーズ

地球に優しい
超耐久性塗装システム
～厚膜形ふっ素樹脂塗料～

環境に優しく、省工程を可能にした超耐久性 厚膜形ふっ素樹脂塗料シリーズです。



工業用

■ 商品群・商品

- 粉体塗料：V-PET各種
- 薄膜美装粉体塗料：FINE V-PET
- 低VOC水系焼付用塗料・常乾塗料シリーズ：アクマイティシリーズ
- 低VOC水系常乾上塗塗料：ハイマックZ
- 低VOC水系常乾プライマー：アロナ#550
- 水系焼付用塗料：テクノ
- 水系建材用塗料：Vセラン#300/#600
- 水系プラスチック塗料：アクアプラニットシリーズ
- 二液形水性ウレタン塗料：アクマイティ二液ウレタン
- エポキシ樹脂系水溶性塗料：アクマイティエポ#1000
- 合成樹脂系下塗塗料：コスモシリーズ



V-PET

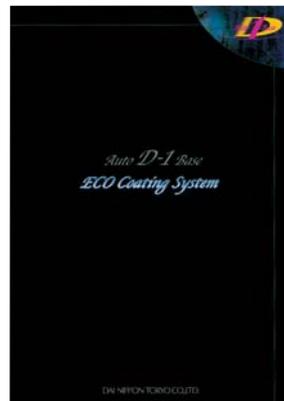
あらゆる金属に
ベストコーティング
～無公害・省資源対応～

無溶剤・省資源・塗装の効率化を可能にした粉体塗料です。用途や性能別に充実した商品をラインアップしています。

自動車補修

■ 商品群・商品

- 環境配慮形自動車補修用システム：
Auto D-1ベース エココーティングシステム
- 環境配慮形ハイビルドプラサフ：AutoプラサフマルチHB ECO
- 環境配慮形ラッカー塗料：DNTラッカー ECO
- 環境配慮形アクリルラッカー塗料：アクローゼスーパー ECO



Auto D-1ベース エココーティングシステム

“高品質”“作業性”
“地球環境”を見つめる
～PRTR届出対象外～

作業性の改善、省力化に対応した一液ベースコート「Auto D-1ベース」をはじめ、より早く、より優れた仕上がりをバックアップするシステムセットです。

環境対応形商品開発の方針

当社では、人と地球に優しい技術をモットーに、「安全」「安心」「健康」「省エネ」「省力化」をテーマとした快適な暮らしを実現する環境対応形商品の開発に取り組んでいます。

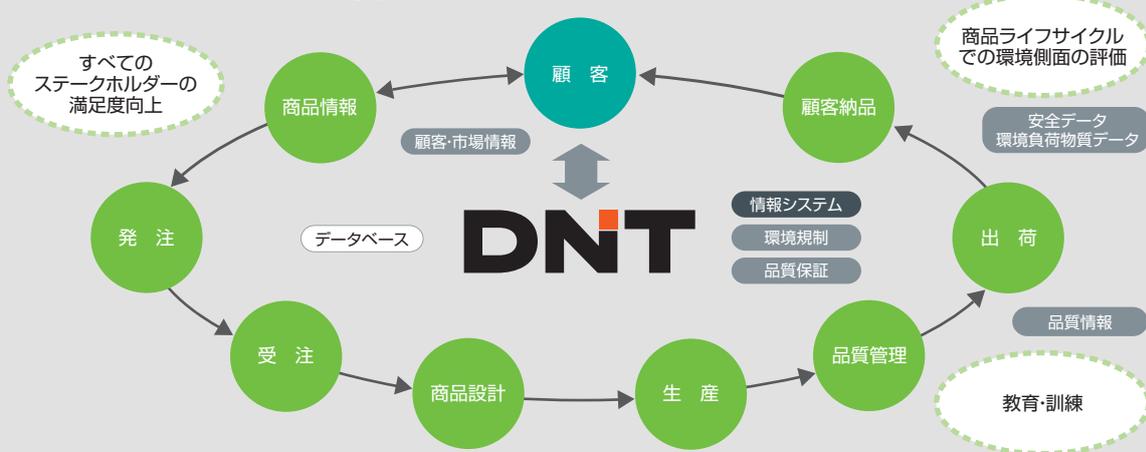
具体的には

- 「環境保全」分野—水系、粉体、ハイソリッド塗料および無溶剤塗料などでVOC削減に努めています。また、鉛やクロムを含有した防錆顔料や着色顔料を含有しない環境に優しい塗料の整備が完了しました。

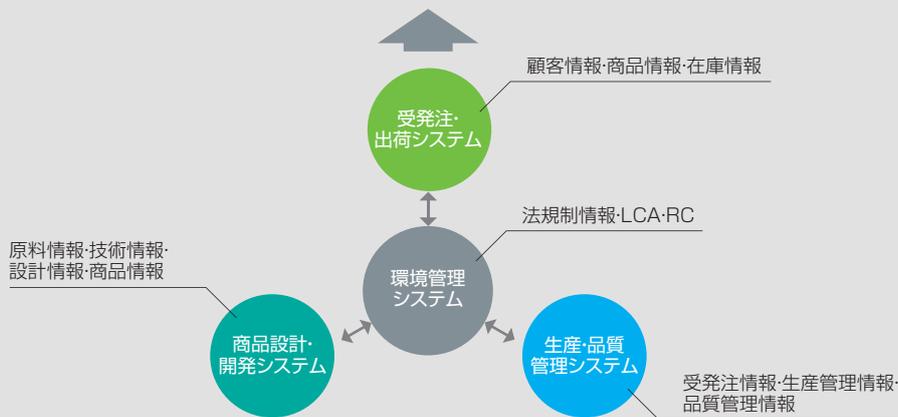
- 「省エネ」「省資源」「省工程」分野—建築構造物の壁や屋根に塗装し、夏場の室内温度上昇を抑制する遮熱塗料、特に環境に優しい水系遮熱塗料を開発しました。

その他、都市部の景観に著しく影響を及ぼす落書きへの対策として落書き防止塗料の開発を行い、市場から高い評価を得ています。省エネ塗料として、焼付乾燥炉を必要としないUV塗料、1回で通常塗料の2回塗装に匹敵する厚膜形塗料の開発も完了しました。特に、ふっ素樹脂塗料上塗の厚膜化は、世界でも画期的な開発と自負しています。

■ QMS・EMSをベースとした顧客対応システム



ISO9001 (品質)・ISO14001 (環境) マネジメントシステム



地球温暖化防止への取り組み

企業活動によって生じる温室効果ガスの削減とともに
温暖化防止に効果がある遮熱塗料の販売、普及に取り組んでいます。

エネルギー使用量の削減

当社は、硬化乾燥時のエネルギー消費量を削減できる低温硬化形焼付塗料、夏季の室温上昇を抑制できる遮熱塗料などの商品を開発・提供しており、これらの商品をご使用いただいた事業所でのエネルギー・CO₂排出量削減に寄与しています。

また、当社の各事業所でも、工場・倉庫に遮熱塗料を塗装し効果を上げています。

那須事業所では、コージェネレーション設備や太陽光発電パネルを設置し、地球温暖化防止につながる活動に積極的に取り組んでいます。

このほか、各事業所では緑地を設けて植栽を行うなど、環境美化に努めています。

● エネルギー使用量・エネルギー使用量原単位の推移



CO₂排出量の削減

炭酸ガス(CO₂)などの温室効果ガスの増加による温暖化によって、海面水位の上昇による土地の喪失や砂漠化の進行、森林破壊、生態系への影響など、さまざまな影響が生じると考えられています。温暖化を防止するために、私たちの生活や企業活動によって生じる温室効果ガスを削減することが、大きな課題となっています。

当社のCO₂排出量は、2007年度比で2年連続して減少しており、今後も企業活動で排出するCO₂排出量の削減に努めます。

また、建物の空調エネルギーの削減や都市部のヒートアイランド現象対策に大きな効果がある商品「エコクールシリーズ」に、「カーボンオフセット」を付与しました。当社が購入した「CO₂排出権」は、風力発電などの自然エネルギー開発や植林事業による森林保護などに生かされています。

● CO₂排出量・CO₂排出量原単位の推移



Topics

工場緑化と自然エネルギーの利用

小牧、那須の主力工場では工場緑化や太陽光発電パネル、コージェネレーションシステム設置などを通じて、環境美化、CO₂削減に積極的に取り組んでいます。



大気汚染防止／水質汚濁防止

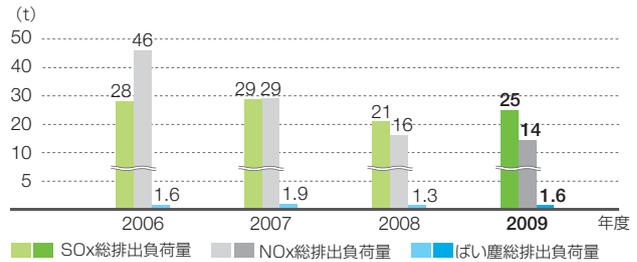
法規制、条例、地域の協定による規制値を順守し、さらに排出量の削減に取り組んでいます。

大気汚染防止

当社の工場や事業所から排出・飛散する大気汚染物質としてのSOx・NOx・ばい塵(すず)は、大気汚染防止法・条例・協定による規制値を十分にクリアし、排出量の削減に取り組んでいます。

また、揮発性有機化合物(VOC)規制についても、工場からの排出抑制はもちろん、低VOC製品を開発・品揃えをすることで、当社ユーザーでの排出量削減にも大きく寄与しています。

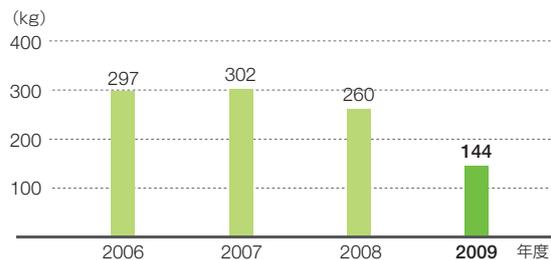
● 総排出負荷量



水質汚濁防止

当社は、水質汚濁防止法・条例を順守するとともに、工場のある地元自治体・漁業組合との協定を結び、定期的な測定・確認を実施しています。万一の漏洩事故が生じた場合を想定して「緊急事態発生対応ガイドライン(事前処置とその対策)」を作成し、予防対策と緊急時の対応をとっています。また、このガイドラインに基づいて、漏洩訓練などの緊急事態発生を想定した防災訓練を定期的実施しています。

● 水質総汚濁負荷量(総COD負荷量)



環境分析機器

環境分析では最新の設備機器を活用しています。



ICP(誘導結合プラズマ)発光分析装置



EDX(エネルギー分散型蛍光X線分析装置)



小型チャンバー法VOC測定装置

廃棄物の削減／グリーン調達・購入

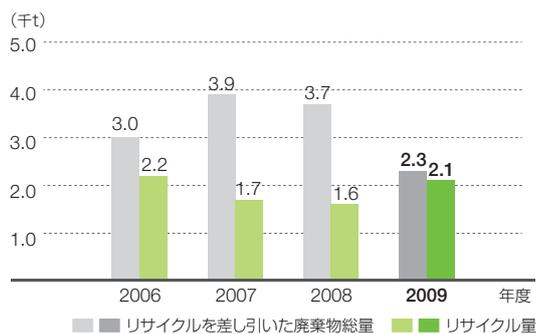
すべての事業所で廃棄物の削減、リサイクルに取り組んでいます。
グリーン調達に適応する商品の品揃えとグリーン購入を実施しています。

廃棄物排出量の削減

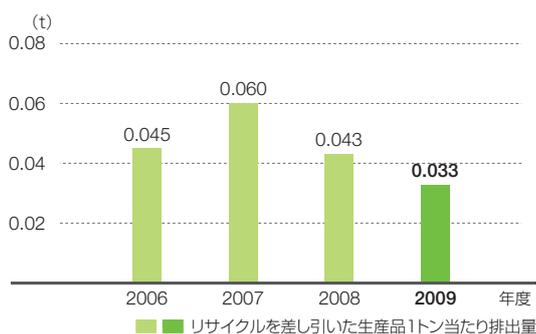
廃棄物の削減・リサイクル活動は全事業所の活動テーマとして取り組んでいます。廃棄物の排出量は総量、原単位ともに前年比で減少しました。

工場では生産活動で発生する廃溶剤などのリサイクルを行っています。2009年度は廃金属、廃プラスチック等のリサイクルをさらに進めた効果が出て、廃棄物総量を大幅に削減することができました。今後もリサイクルをさらに進める活動を行い、資源の有効活用と廃棄物削減に取り組んでいきます。

● 廃棄物排出量とリサイクル量の推移(総量)



● 廃棄物排出量の推移(原単位)



グリーン調達・購入

グリーン調達とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して必要性をよく考え、環境への負荷をできるだけ少なくするものを選んで購入することです。

こうした取り組みは、購入者自身の活動が環境に優しいものになるだけでなく、製造企業にも環境負荷の少ない製品の開発を促すことになり、経済活動全体を変えていく可能性があります。

環境省が所管する2001年4月1日施行のグリーン購入法(正式には「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」)では、国等の公共機関が環境物品等の調達を義務づけているとともに、地方公共団体や事業者および個人にもグリーン購入に努めることを求めています。

2001年2月に紙類・文房具・自動車・公共事業など14分野について101品目特定調達品(グリーン商品)が公示されましたが、2002年4月からの適用品目に、塗料では初めて「下塗塗料(重防食)(鉛・クロム等の有害重金属を含む顔料を配合していないこと)」が公共事業の分野で指定されました。

当社では、グリーン調達に適応する商品の品揃えを行うとともに、原材料等の調達においてもグリーン購入を実施しています。

■ 大日本塗料のグリーン購入に基づく主な特定調達品目

1. ノボクリーン
2. エコクール
3. グリーンスポイド
4. グリーンボーセイ
5. エポオールシリーズ
(エポオール、エポオールスマイル等)
6. エポニックスシリーズ
(エポニックス#10下塗、エポニックス#20下塗等)

■ 各業界のグリーン購入への対応

各業界のお客様への当社品の納入は、顧客ごとのグリーン購入規定を満足すべく審査を受け、認定を得ています。

化学物質の管理

原料や製品とそれに使用している化学物質はデータベースをもとに情報システムを構築して管理しています。

化学物質の管理

主力製品である塗料には多くの化学物質が使用されており、生産工程で取り扱う化学物質は環境や健康への影響を避けるために適切な管理が必要となります。

化審法、安衛法、化管法(PRTR法)などの法規制を順守するとともに、原料などに使用する化学物質については公共機関からの情報や原料の安全性データシート(MSDS)などの情報をもとにデータベースと分類システムを構築し、リスク評価を行い使用禁止、制限などの管理をしています。

原料などに使用する化学物質についてもリスク評価を実施し、使用禁止物質(Aランク)、使用制限物質(Bランク)、削減対象物質(Cランク)、管理対象物質(Dランク)に分類して管理を行っています。

● リスクアセスメント対象化学物質 ランク別使用制限と管理

使用禁止物質(Aランク)	毒劇法・特定毒物、毒物、 化審法1、2種特定化学物質 発がん性物質(IARC:1の一部)、 生殖毒性を有する有機溶剤
使用制限物質(Bランク)	毒劇法・劇物(含有製剤規定あり)、 発がん性物質(IARC:1)
削減対象物質(Cランク)	毒劇法・劇物(含有製剤規定なし) 発がん性物質(IARC:2A・2B)、 PRTR法1種該当物質
管理対象物質(Dランク)	発がん性物質(IARC:3)、 PRTR法2種該当物質 安衛法・通知対象物質

化学物質規制への対応

化学物質規制は、危険有害性の高い特定の化学物質の使用を規制・禁止することから、広い範囲で使用されているすべての化学物質を対象に、健康や環境への有害性とばく露の頻度からリスクを評価し適切に管理する方向に変わってきました。

EU(欧州連合)のREACH規制もこの動きの中にあり、ほとんどすべての化学物質の「登録」、「評価」と、使用することの「認可」、特定の物質については使用の「制限」をするものです。

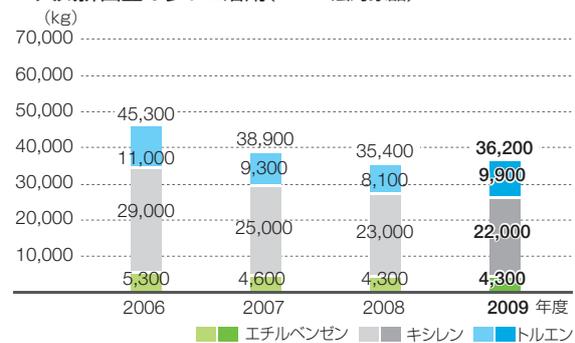
国内の化審法や安衛法、化管法(PRTR法)も対象となる化学物質が毎年追加され、製造量、輸入量、環境への放出量などの届出や環境測定範囲が広がっています。当社はこれらの規制に適切な対応をしています。

PRTRの取り組み

化管法(PRTR法)は、化学物質がどのような発生源から、どれぐらい環境中に排出され、あるいは廃棄物や下水に含まれて持ち出されたかというデータを把握し集計、公表する仕組みです。

当社では環境対応形商品の開発を進めるとともに、生産工程での排出を防止することで全体量の削減に取り組んでいます。

● 大気排出量の多い3溶剤(PRTR法対象品)



● 排出量(原単位)製品1トン当たりのグラム数(PRTR法対象品)



● 化学物質規制

化審法	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
安衛法	労働安全衛生法
化管法(PRTR法)	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律
REACH規制 (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)	化学物質に関する登録、評価、認可及び制限に関する指令

● PRTR法対象物質の排出量・移動量

種類	物質	PRTR 物質番号	2009年度(平成21年度)('09 4月~'10 3月)	
			大気排出量(kg)	移動量(kg)
1種	アクリル酸及びその水溶性塩	003	0	4.3
1種	アクリル酸エチル	004	0	18
1種	アクリロニトリル	007	0	2.2
1種	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	013	0	5
1種	4,4'-イソプロピリデンジフェノール(別名ビスフェノールA)	029	0	120
1種	4,4'-イソプロピリデンジフェノールと 1-クロロ-2,3-エポキシプロパンの重縮合物 (別名ビスフェノールA型エポキシ樹脂)(液状のものに限る)	030	0	860
1種	エチルベンゼン	040	4,300	9,500
1種	エチレングリコール	043	0	250
1種	ε-カプロラクタム	061	0	62
1種	キシレン	063	22,000	49,000
1種	クレゾール	067	0	12
1種	クロム及び3価クロム化合物	068	0	75
1種	6価クロム化合物	069	0	140
1種	コバルト及びその化合物	100	0	26
1種	酢酸ビニル	102	0	83
1種	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1,1-ジメチル尿素 (別名ジウロン又はDCMU)	129	0	150
1種	スチレン	177	35	1,200
1種	1,3,5-トリメチルベンゼン	224	430	1,600
1種	トルエン	227	9,900	14,000
1種	鉛及びその化合物	230	0	2,300
1種	ノニルフェノール	242	0	14
1種	フェノール	266	6.7	22
1種	フタル酸ジ-n-ブチル	270	0	94
1種	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	272	0	0
1種	フタル酸n-ブチル=ベンジル	273	0	0
1種	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	293	0	0.7
1種	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸-1,2-無水物	300	0	1.5
1種	ほう素及びその化合物	304	0	19
1種	ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル(アルキル基の 炭素数が12から15までのもの及びその混合物に限る)	307	0	1.0
1種	ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	309	0	120
1種	ホルムアルデヒド	310	74	320
1種	マンガン及びその化合物	311	0	29
1種	無水フタル酸	312	0	310
1種	無水マレイン酸	313	0	0.7
1種	メタクリル酸	314	0	9.1
1種	メタクリル酸2-エチルヘキシル	315	0	4.1
1種	メタクリル酸2,3-エポキシプロピル	316	0	250
1種	メタクリル酸2-(ジエチルアミノ)エチル	317	0	0.3
1種	メタクリル酸n-ブチル	319	0	92
1種	メタクリル酸メチル	320	0	480
1種	メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート (別名m-トリレンジイソシアネート)	338	0	0.6
合 計			36,745.7	81,176

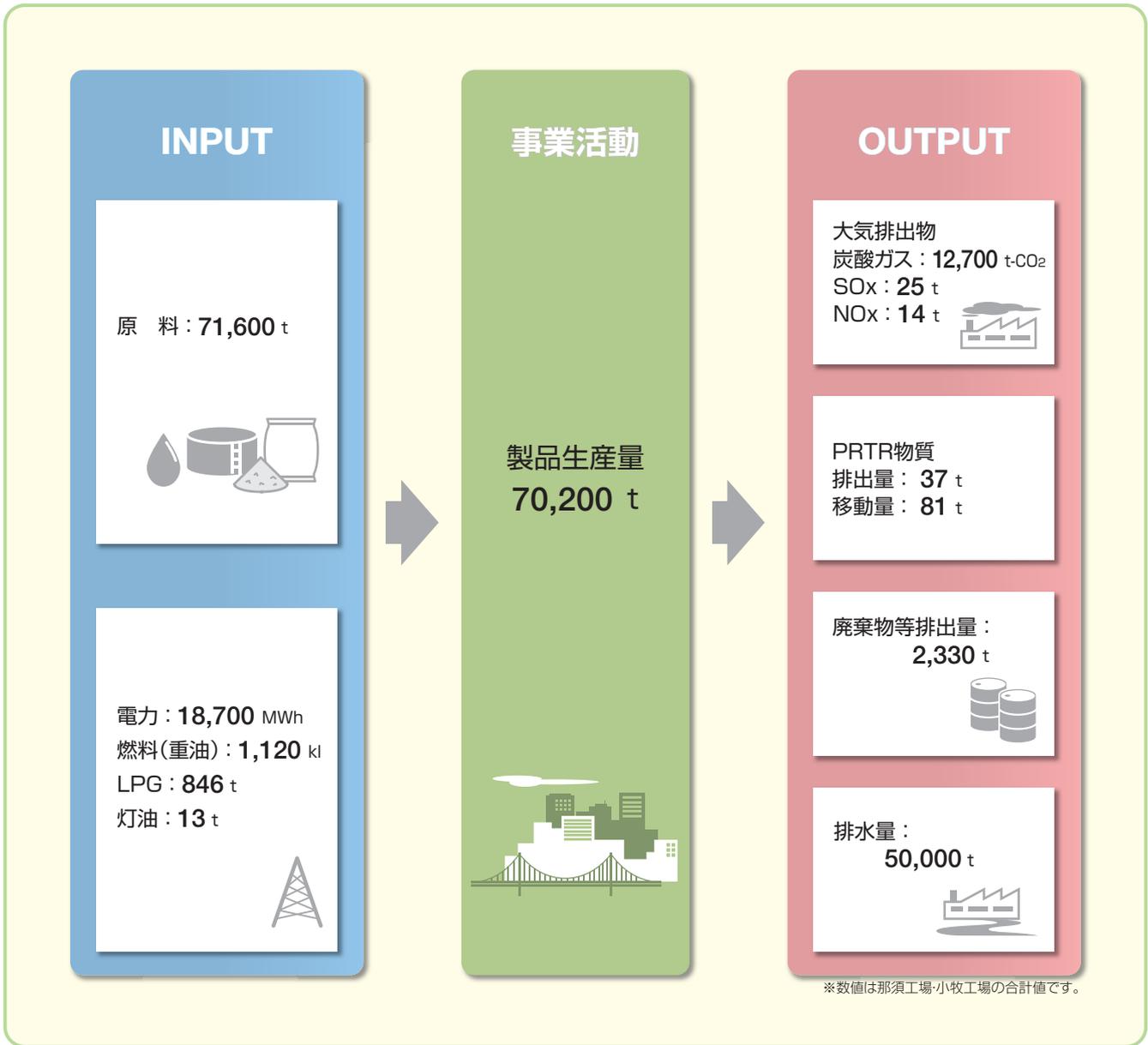
※那須、小牧、相模の3事業所合計

事業活動と環境保全活動

エネルギー使用量の削減、温室効果ガスや環境負荷物質の排出抑制、産業廃棄物の削減と化学物質の適正な管理を行っています。

事業活動のマテリアルバランス

当社では、主力工場である那須工場および小牧工場における環境負荷を把握・分析し、原材料の有効活用、エネルギーの効率的な利用、排出ガス・排水・産業廃棄物の削減、リサイクル利用を推進しています。



環境コミュニケーション

各地で環境セミナーや講演会を開催しています。
RC活動の成果について地域社会との対話に取り組んでいます。

「DNT環境セミナー」の開催

当社では毎年「DNT環境塾 環境と塗料についてのセミナー」（環境セミナー）を開催しています。8回目を迎えた2009年は「塗料で提案! ー環境対策&Eco Lifeー」をテーマに、北海道から本州、四国を経て九州まで、全国11カ所で実施し、約1,500名のお客さまにご来場いただきました。

開催地によって若干内容は異なりますが、深刻化する環境政策と建築工事標準仕様書の動向(2010年度版)についての基調講演のほか、建築分野では最近の塗料業界全体の取り組みや新商品である「Vトッピー液スマイル」、「SBライズコートシステム」、構造物分野では「人と地球にやさしい防食新技術および補修工法の提案」として厚膜形ふっ素樹脂塗料や省工程剥落防止システムをご提案し、いずれのセミナーも盛況のうちに終わりました。



「DNT環境セミナー」大阪会場風景

環境に配慮した「景観色彩」の推進

カラーセンターでは、構造物(橋梁・プラントなど)や、建築物(ビル・マンション・住宅など)の色彩設計を立案・制作しています。

設計の際には、「快適な色彩環境」をテーマに、色彩の心理的効果をもとに地域の環境特性に配慮した、心地よいカラーデザインを心がけています。

また、各種団体に対して「景観色彩」の概要や、全国各地で制定されている「景観色彩ガイドライン」の事例説明など、積極的な講演・講習活動を行い、色彩提供産業としての塗料の価値の向上と、美しい都市景観や快適な生活環境創りに努めています。



「東京建築士会」勉強会風景

Topics

「創立80周年記念事業」を実施

2009年7月25日に創立80周年を迎えた当社は、お客さまや協力会社に感謝の意を表すとともに、会社のさらなる発展を期して、さまざまな記念事業を実施しました。

「80周年マーク」を名刺・封筒・カタログに貼付したほか、新ロゴの作成、新聞・雑誌への「周年記念広告」の掲載、「周年記念ノベルティグッズ」を関係先に配布するなど、創立80周年のPRに努めました。

また、会社の顔とも言える「本社玄関ロビー」を明るくモダンな印象に全面改修し、訪問されたお客様を快くお迎えするとともに、塗料メーカーとしてのイメージアップを図りました。



全面改修した「本社玄関ロビー」

雑誌に掲載した「80周年記念広告」

Topics

「エコプロダクツ2009」で環境展示会ブースの製作に協力

2009年12月10～12日に東京ビッグサイトで開催された環境展示会「エコプロダクツ2009」では、当社が塗料業界3団体のブース製作に協力し、塗料製販装・普及委員会から感謝状と記念品を授与されました。

当社は暗闇で光る壁と床、見上げると夜空で発光するオーロラが映る「光のトンネル」などインパクトのある、高い難度の展示物を手がけました。来場者からは「きれい」「すごい」と好評で、独自の蛍光塗料と施工技術を役立てることができました。



感謝状と記念品



製作に協力した「光のトンネル」風景

お客様との関わり

ユニークな環境対応形商品の開発や、さまざまなコミュニケーションを通して、お客様の信頼にお応えしています。

品質方針

環境対応技術・商品開発にいち早く取り組み、業界をリードしてきた当社は、今後も「環境保全」「省エネ・省資源」「省力化・高機能化」など、「環境時代をサポートする技術」の優位性確保に努めるとともに、商品の開発スピードを早めて、ユーザー・顧客のニーズに応えられる製品を継続的に提供していきます。

品質方針

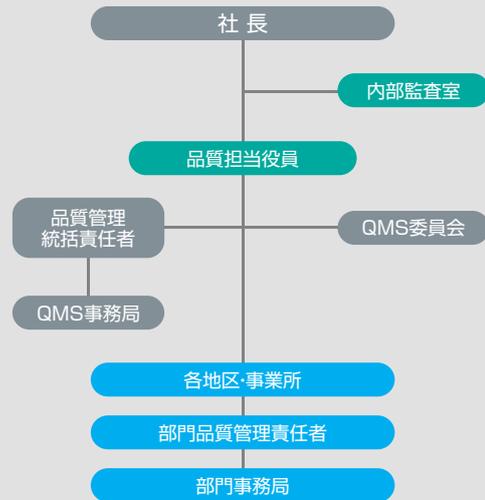
大日本塗料株式会社は次の品質方針を定める。

- 1 顧客の要求品質を捉え、顧客の期待する製品及びサービスを遅滞なく適切に提供すること。
- 2 顧客の要求品質を実現化するため、必要な経営資源を確実に提供すること。
- 3 常に社会変化に対応し、自己の能力を最大限発揮し顧客満足度を高めること。
- 4 品質マネジメントシステムを全員が理解し、計画的で効率的運用活動を実施し、且つ継続的改善を行うこと。
- 5 環境保全等、地域社会を配慮した社会品質の向上に努め、社会に貢献すること。

品質保証体制

当社は、生産関連会社並びに販売関連会社を含めた大日本塗料グループとして、塗料製品の製造・販売の事業を行っています。品質保証体制を維持するためには、これらの大日本塗料グループ全体の連携・対応が重要です。大日本塗料はもちろんのこと、販売会社である大日本塗料販売(株)全営業所でISO9001を認証取得するなど、設計・生産・販売を一体化した品質保証体系を構築して、顧客への対応を図っています。

品質保証体制図



ISO9001品質システムの認証機関による審査



◎ 賀詞交歓会を開催

2010年1月、新年の賀詞交歓会が、大阪本社および東京営業本部で開催されました。

百年に一度と言われる大不況から回復基調に戻りつつあるとはいえ、依然先行き不透明な状況という厳しい経済環境下にありましたが、2009年7月に創立80周年を迎えた当社が、新たな歴史を創り上げるべく、その決意を表明するとともに、お取引先に感謝の意を表すという趣旨で開催しました。来場者には山下社長名の「平成22年新年ご挨拶文」を配布しました。



「賀詞交歓会(東京営業本部)」風景

◎ 塗料相談室

当社では、全役員・社員が常に「お客様の立場に立って行動する」ことをモットーとし、お客様満足度の向上に取り組んでいます。その一環としてお客様と当社とを電話・Eメールで結び相談窓口として「塗料相談室」を設置しています。

塗料相談室
フリーコール

イロヨイ
0088-22-1641
受付時間 平日の9:00~16:30

「塗料相談室」では色・規格・塗装仕様・商品の使用方法・塗装時のトラブルへの対処方法などのご相談への対応、環境対応塗料選択マニュアル「クリーン環境提案」をはじめとする各種資料・カタログ類の提供、新商品の案内などの業務を行っています。なお、より専門的な内容のご相談には、専門の部署を紹介して対応しています。

また、この「塗料相談室」にお寄せいただいた貴重なご意見・情報等は社内の関係部署にフィードバックされ、以後の活動に生かしています。

※ホームページでのお問い合わせも受け付けています。

<http://www.dnt.co.jp/japanese/toiawase.htm>

◎ 販売店の人材育成の支援

当社は14年前から販売店の貴重な人材育成の支援を目的に体系的な研修講座を開始しています。

講座内容は年度により変化があり、今年度の初心者向け座学では、仕事に取り組む際の基本姿勢を確認し、顧客満足度向上のためのビジネスマナーを身につける「ビジネスマナー基礎コース」や、塗料営業に必須の「色彩入門コース」、塗料に関しては主に建築用塗料、構造物塗料の初歩を学ぶ「入門コース」を実施しました。

一方、中堅以上の方を対象とした座学は、効率的な営業活動を行うための「営業スキル向上コース」や、最近の安全・環境に関する知識を学ぶ「環境安全コース」を、塗料に関しては、業種ごとに専門的な知識を学ぶコースを実施しました。



「色彩入門コース」研修風景

◎ 色覚の異なる方への配慮

日本では目の疾患が原因であるケースも含め、一般の人とは色の見え方が異なる方が約500万人いると言われております。当社のカレンダーやカタログは、これらの方にも正しく情報を伝えるために、識別しやすく配慮する「カラーユニバーサルデザイン」を導入しています。

「DNTカレンダー」では休日の指定色に見やすい色の選定や、平日と土曜・日曜を区分しやすい独自の縁取り数字を採用しています。



「2010DNTカレンダー」一般の人の見え方



D型(2型)の方の見え方

社会との関わり

一つの企業として、一人の市民として、地域活動に積極的に参画し、社会に貢献しています。

地域とのコミュニケーション

■ 「第1回 国際クラス別全日本卓球選手権大会」を支援 (日本肢体不自由者卓球協会主催)

大阪市舞洲障害者スポーツセンターアミティ舞洲で開催された「第1回 国際クラス別全日本卓球選手権大会」では、当社のボランティアグループがお手伝いをしました。



大会風景

■ パンケーキ販売

2009年6月から大阪府が推進する「授産施設収入倍増プロジェクト」に協力しています。

毎月1回、昼休みに当社の食堂の一角を授産施設の出店場所として提供し、クッキー・パウンドケーキ・パンなどを販売しています。毎回ほぼ完売の状態、作業所からもよろこばれています。同プロジェクトではこのほかインクカートリッジ回収事業のお手伝いも行っています。



販売風景

Topics

塗料を地元の学校へ提供

小牧事業所では地域とのコミュニケーションの一環として、学校活動などに使用する塗料を地元の学校へ提供しています。当社からは環境にやさしい水系塗料「DNTビューレタン」を提供し、地域活動に貢献しています。



春日井アートプロジェクト・ライブイベントの様子

◎ 教育支援の取り組み

■ 支援学校体験実習の受け入れ

おおさか人材雇用開発人権センターの要請により、吹田支援学校の就業体験実習を受け入れました。実習生は2週間の清掃業務の体験と指導を経て、2010年4月から当社に採用されました。

過去3年間のこれらの取り組みが評価され、2010年5月には大阪府労働部、大阪市民政局から、それぞれ「就職マッチング賞」「アウトソーシング賞」を受賞しました。



実習の様子

◎ グループ会社の取り組み

■ 職場体験受け入れ(ビーオーケミカル(株))

ビーオーケミカル(株)では毎年、地域とのコミュニケーションの一環として工場周辺の中学校からの職場体験学習に協力しています。

2009年も6月と9月には2つの中学校から男子生徒合わせて6名を受け入れました。

職場体験学習は安全教育から始まり、技術課では塗料についての基礎学習、塗装や調色のほか、製造部のラベル貼り補助も体験してもらいました。

体験終了後に届くお礼状には「今回一番印象に残ったのは昼食が美味しかったことです」などの感想文が添えられていました。



職場体験学習の様子

Topics

中国より研修生を受け入れ

2009年12月、中国の当社水系塗料拠点である合併会社「AJISCO-DNT(Ningbo)Paint Co.,Ltd.(中国)」から5名の研修生を受け入れました。

受け入れ先である小牧・那須の両工場では約3週間にわたって生産工程を学びましたが、各工程担当者の品質管理に対する意識の高さに接するなど、得るところは多かったようです。

当社の塗料が実際に使われている東京地区の物件塗装現場では、お客さまに満足いただいている様子を実際に確認したり、カラーセンター東京・シンロイヒ(株)大船工場では色彩ノウハウを学ぶなど多くの貴重な体験を重ね、非常に有益だったと思います。

休日には東京の下町などで日本の文化に触れたことも、忘れていたい思い出となったようです。研修生たちの今後の中国での活躍を期待しています。



「小牧工場」生産研修記念写真



「シンロイヒ」塗装研修風景

従業員との関わり

従業員一人ひとりの個性を尊重しながら、働きがいのある職場環境をつくっています。

労働災害防止への取り組み

各事業所では職場ごとに危険予知マップを掲示し、危険作業と危険箇所の発見および予防することを目的とした危険予知(KY)活動を行っています。

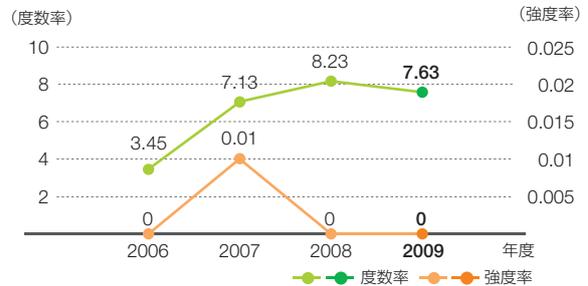
これらの活動内容や災害事故報告は毎月、地区安全衛生委員会で報告され、対策などについて討議が行われています。全社の中央環境安全衛生委員会では地区安全衛生委員会の報告を受け、これに対応しています。

また、環境品質保証部が毎月発行する「環境安全衛生ニュース」により、塗料メーカー7社で構成されている労働災害情報交換を目的とした「安友会」での労働災害情報を当社だけでなくグループ会社にも提供し、労働災害防止に努めています。更に中央環境安全衛生委員会では毎年、各事業所の職場巡回指導を実施し、経営層が直接作業現場を訪れて

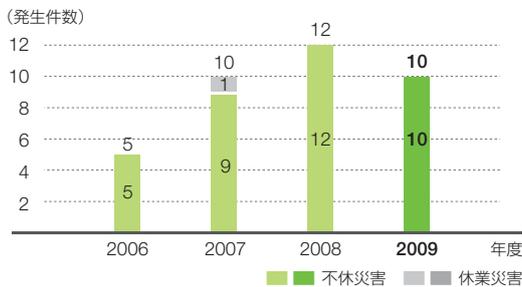
現場の意見を聞き、改善を図っています。

毎年の新入社員・中途採用者に対しては、安全衛生に関する教育を実施するとともに、日々OJTで訓練・指導を行っています。

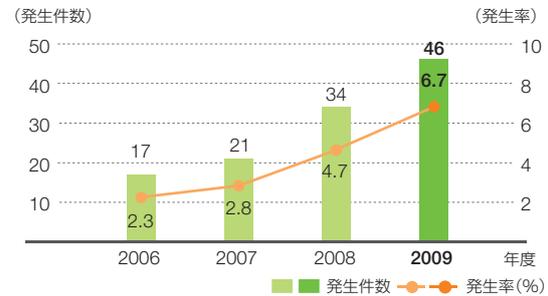
労働災害発生度数率・強度率



労働災害発生件数



長期疾病発生件数



健康増進への取り組み

従業員の健康診断および有機溶剤取扱者への有機溶剤特殊健康診断を定期的実施しています。経過観察・治療が必要な場合は、産業医が面接し改善指導を行っています。

また、産業医による工場内のパトロールを実施し、作業環境改善への指導を受けています。最近とくに大きな課題として取り上げられているメンタルヘルスについては、従業員の勤務実態を正しく把握し、労働時間が過剰となっている場合や欠勤がちな場合などには、産業医との面接を勧めるなどの対応を進めています。

更に、THP(トータルヘルスプロモーションプラン)運動への参加を通じて、心と身体の健康づくりを展開しています。



看護師による健康相談

環境・安全パトロール

2009年度は「突起物」に起因する災害が重篤になる可能性があるという指摘を受け、「はさまれ・巻き込まれ・突起物対策の実施状況」など、右記項目を重点項目に設定しましたが、とくに重大な不備はありませんでした。

一方、昨年度と同様、5S関連の指摘が多く挙げられ、引き続き改善フォローしています。

2009年度の重点項目

- ① はさまれ・巻き込まれ・突起物対策の実施状況
- ② 静電気対策の実施状況
- ③ 容器の蓋閉め・粉塵の飛散防止・漏出防止対策の実施状況
- ④ 保護具・局所排気装置・衛生設備の点検
- ⑤ 5S関連の実施状況

改善フォローの内容と件数

2007年度		2008年度		2009年度	
項目	件数	項目	件数	項目	件数
はさまれの可能性	1	はさまれ、巻き込まれ、落下などの防止	7	はさまれ、巻き込まれ、突起物対策	4
環境影響の可能性	2	静電気対策	1	静電気対策	0
健康被害防止対策	4	環境影響対策	2	環境影響対策	0
5S関連	26	健康被害の防止	4	健康被害の防止	1
その他	3	5S関連	21	5S関連	18
		その他	15	その他	20
合計	36	合計	50	合計	43

5S：整理・整頓・清潔・清掃・躰

自衛消防組織の活動

那須事業所では自衛消防組織の活動として、総合防災訓練以外に環境事故を未然に防止するための漏洩時対応訓練を実施しています。また、これらの訓練にともない、土嚢の管理手順などを作成して、緊急時に備えています。



那須事業所漏洩時対応訓練

ワーク&ライフバランスの推進

変化の激しい社会環境の中で新しい知識・技術を身につけることや地域社会での活動に取り組むことは、個人の生きがいに留まらず、仕事の満足度を高めることにもつながり、企業の業績にも反映されます。

当社では、従業員の仕事と生活の両立をサポートするために、自己啓発・フレックスタイム・育児休業・介護休業などの各制度を設けるとともに、従業員の社会参加を奨励し積極的に支援しています。

また、人材育成・職場巡回指導・健康増進への取り組みを始め、労働組合主催によるレクリエーションの実施など、従業員との関わりを考慮した活動を実施しています。

人事制度

より働きがいのある職場・企業づくりと、今後の会社と従業員双方の発展と成長を目指した人事制度を導入しています。

年5回の面接を軸にし、資格要件・昇格条件・賃金体系を開示し、それらに反映する評価体系については、より仕事に基づく「納得感」のある体系へと進展を図るとともに、従業員の目指すべき方向性を明確にすることにより人材を育成する人事制度としています。

本制度を適正に運用することにより、従業員一人ひとりの意欲の向上、ひいては会社全体の活性化につなげています。

人事制度のポイント

- 人材を軸に会社を活性化できる人事システム
- 成果につながる行動をとった人、成果を上げた人が報われる「やりがいのある人事制度」
- 仕事に基づき、一人ひとりの成長を支援する評価体系
- 人材を軸とした企業活性を支える周辺制度

人材育成

当社では、採用内定者に対し、インターネットや通信講座を使った入社前研修を実施しています。入社後は、新入社員研修はもちろんのこと、必要に応じて英会話教室や通信教育講座などを受講することができます。

また、階層別研修として中堅社員育成研修やリーダー研修・基幹職研修などを体系的に整備、本人の希望や適性を配慮した上で、キャリアを磨くための環境を整えています。



中堅リーダー研修

再雇用制度・高齢者雇用の推進

定年退職者が引き続き就労することを希望した場合、高齢者雇用安定法の趣旨に基づいて「シニアスタッフ制度」を運用しています。

これは定年退職者の豊富な業務経験・知識・技能を会社の業務に再活用し、併せて高齢者の生きがいの充実を図りながら、会社の発展に資することを目的としたものです。

障害者雇用の促進

障害者の社会参加と職業的自立を図るために、雇用・就労の場を確保することが、企業としての社会的責任です。当社では、障害者雇用促進法などの関係法令にそって基本的な方針を策定し、全事業所をあげて障害者の雇用に積極的に取り組んでいます。

人権の尊重

性別・年齢・出身地・社会的身分などの理由による差別をしない、個性・能力を生かし尊重することが人権尊重の基本です。当社は、企業倫理規範の中で「人権と個性を尊重し、明朗で自由闊達な企業風土を築く」ことを宣言しています。

また、従業員の人格を尊重し、雇用の差別がないように雇用管理のルールを確立し、一人ひとりが安心して仕事ができる職場環境の形成に取り組んでいます。

グループ会社の取り組み

大日本塗料グループの一員として、
同じ目標に向け、歩調を合わせて活動しています。

■ 日塗化学株式会社

会社創立	平成18年6月
資本金	8,000万円
所在地	本社 東京都大田区蒲田5-13-23 戸畑事業所 北九州市戸畑区大字中原先ノ浜46-80
在籍人員	108名(協力会社含む)
月産生産量	平均1,073t
主要生産品目	エポキシ樹脂系塗料、クマロン樹脂



クマロン樹脂製造設備

日塗化学(株)は、「石炭化学をコア技術とし、環境と社会に貢献する」を経営方針に、水道用塗料・陸上構造物用塗料、クマロン樹脂等を製造・販売しています。RC活動、ISO品質管理活動、

省エネ活動を基軸に、環境負荷軽減を推進します。また、北九州地区石油コンビナート等特別防災区域に位置し防災関係機関と相互に協力して防災対策推進に努めています。

環境に関する取り組み

● 省エネへの取り組み

原単位1%削減を目標にインバーターコンプレッサー導入やボイラー導入による購入産業用蒸気の削減検討を行っています。



インバーターコンプレッサー

● 産業廃棄物削減への取り組み

廃塗料に含有する溶剤の蒸留回収や樹脂製造工程で発生する中和物の油分回収を実施、減量化を推進しています。



溶剤回収設備

● 作業環境改善への取り組み

捕集効率アップのため集塵機の更新、夏季熱中症対策としてスポットクーラー導入等を実施、作業環境も大幅に改善できました。



集塵機更新

● 防災への取り組み

定期的に屋外タンクの補修や油水分離槽の整備を行い、漏洩事故防止に努めています。



屋外タンク補修



油水分離槽整備

● 環境配慮型製品の開発

低溶剤化(ハインソリッド)、無溶剤化等塗料の開発と普及を積極的に進め、VOC・環境負荷物質の削減を推進しています(無溶剤化率29%、ハインソリッド化率64%)。樹脂についても水性化活用の展開を検討中です。また、有鉛顔料の使用を中止し、完全無鉛化を図りました。

環境関連トピックス

● 省エネ関係

エネルギー使用合理化シンポジウムに参加、改正省エネ法について適正な対応と従業員への改正内容教育を実施しました。

● 廃棄物関係

北九州市廃棄物適正処理推進連絡会を通して、適正な管理処理を推進しています。

● 防災関係

防災訓練の実施、市及び各種協会主催による講演会・訓練に参加、安全に対する企業体質強化にも努めています。



防火訓練講評



静電気対策について取り組み事例報告



地球環境への負荷軽減のために、大豆油インクを使用しています。